



2013年度 総合薬学研究・総合薬学演習 卒業論文発表会

教務課

2013年6月24日（月）より26日（水）まで、次頁スケジュールのとおり、中央講堂兼体育館において6年次生の卒業論文発表会（ポスター発表形式）を開催いたしました。

今年度から英語でのポスター作成・発表・質疑応答にチャレンジしました。発表会には、海外学術交流協定を締結している瀋陽薬科大学（中国）およびアレキサンドリア大学（エジプト）から教員と学生、計11名をお招きしました。招待者と本学の学生との間での活発な質疑応答が交わされ、印象的な光景が見られました。

また、発表会終了後にThe Get-Together Partyを躬行館食堂において開催しました。ポスター発表で活発な質疑応答を行った学生約60名に、海外招待者から招待状が授与され、交流を深めました。

「英語で」という新しい試みを心配しておりましたが、海外からの招待者との交流など、本学学生の秘められたアクティビティの高さが示された卒業論文発表会となりました。



英語でプレゼンテーションする学生



発表会の様子

CONTENTS

2013年度 総合薬学研究・総合薬学演習

卒業論文発表会	1～2
2014年度および2013年度大学院入学選考結果	2
特集 医薬品開発のためのサマープログラムがスタート	3～6
Alexandria Universityと学術交流協定を締結	6
第11回文化講演会のお知らせ	6
第98回薬剤師国家試験の結果について	7～8
滋賀医科大学ー京都薬科大学	
第1回ジョイント・シンポジウム	9
第4回KPUシンポジウム	10～11
卒業生からのメッセージ	11
第5回学生満足度調査 集計結果	12～14
2013年度大学説明会の学外開催の結果について	14
2013年度 6月、8月のオープンキャンパス開催	15～16

2013年度京都薬科大学給付型奨学生	17
証明書の自動発行機を設置しました！	18
学生相談室だより	19
「医療の担い手プロジェクト」	
～医療を担う学生よ集えい！～ の開催	20～21
保健・医療・福祉系学生交流合同セミナーに参加して	21～22
日本薬学会第3回全国学生ワークショップに参加して	22
2年目を迎えた「京都学」講義	23～24
Library News	24
受賞・掲載	25～26
「身近な夏の不思議体験2013 イン 山科」開催	27
お知らせ	27
京薬会だより	28
京都薬科大学奨学寄附金芳名録	28

《スケジュール》

日時	系	分野	人数
6/24（月） 14：00～15：30	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学、生化学、病態生理学	75名
6/24（月） 16：00～17：30	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学、薬理学、臨床腫瘍学	70名
6/25（火） 14：00～15：30	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学	83名
	基礎科学系	健康科学、物理学	
	薬学教育系	臨床薬学教育研究センター、情報処理教育研究センター	
	附属施設	薬用植物園	
6/25（火） 16：00～17：30	創薬科学系	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学	42名
6/26（水） 14：00～15：30	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学	59名

2014年度大学院薬学専攻博士課程・薬科学専攻博士後期課程(夏季募集) および2013年度(秋季入学)の入学選考結果

入試課

2014年度大学院薬学専攻博士課程・薬科学専攻博士後期課程(夏季募集)および2013年度(秋季入学)の入学選考を8月23日（金）に実施し8月30日（金）に合格発表を行いました。

2014年度薬学専攻博士課程(夏季募集)の志願者は5名、合格者は5名でした。薬科学専攻博士後期課程(夏季募集)の志願者は2名、合格者は2名でした。

2013年度薬学専攻博士課程(秋季入学)の志願者は1名、合格者は1名でした。薬科学専攻博士後期課程(秋季入学)の志願者は2名、合格者は2名でした。

○2014年度薬学専攻博士課程(夏季募集)の合格者数等

志願者数	5名
受験者数	5名
合格者数	5名

○2014年度薬科学専攻博士後期課程(夏季募集)の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

○2013年度薬学専攻博士課程(秋季入学)の合格者数等

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

○2013年度薬科学専攻博士後期課程(秋季入学)の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

特 集

「医薬品開発のためのサマープログラム」がスタート

教務課

「グローバル化」という言葉を頻繁に目にするようになったのは、いつ頃からだろうか？「知恵蔵2013」によれば、「グローバル化」という言葉について、「1970年代、地球環境が人類的課題だという意識が生まれたことなどから広く使われるようになった」という。もう40年ほどの歴史を持っていることになる。この「グローバル化」をどのように価値判断するかはともかく、現実の世界では、この「グローバル化」の趨勢は否応なく、そしてとどめようもなく急進展している。

この「グローバル化」が、最大多数の人類の幸福となっていくようにするためには、それぞれの分野でしっかりとした価値観と目的意識とをもって活躍できる人材を育成することが何よりも必要であろう。今夏より本学で開始された「医薬品開発のためのサマープログラム」参加者の体験記からは、このプログラムが、医薬という分野でそうした人材の育成を目指す新たな取り組みとして好調なスタートを切ったことがうかがえ、頼もしい思いがする。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

本学では、グローバル人材の育成を目指して様々な取り組みをしています。英語での卒論発表やTOEICの受験機会提供などもその一環です。

2013年5月25日に全世界で医薬品開発業務受託機関を展開しているパレクセル・インターナショナル株式会社とグローバル人材育成プログラムに関する包括協定を締結し、グローバル人材育成に関して新たな一歩を踏み出しました。



調印式の様子

左側：乾学長 右側：中森代表取締役

パレクセル社は医薬品開発の分野で働くことに関心を持つ人のための教育プログラムを開発し、米国、ドイツ、シンガポールで実施しています。今回、本プログラムを日本で開始するにあたり薬学教育研究に実績のある本学に打診があったものです。

この教育プログラムは、ドイツから講師を招き、全て英語で実施されました。本学のグローバル人材の育成という目標に適うもので、包括協定の締結から短い準備期間ではありましたが、8月19日から23日の5日間「医薬品開発のためのサマープログラム」として開講することができました。

参加者を募集したところ、まったく新しいプログラムであること、授業がすべて英語で進められること等不安なことがあったと思いますが、22名のチャ

レンジャーが集まりました。

プログラム初日は、さすがに講師の話すスピードや専門用語に戸惑ったようですが、グループワークで助け合いながら理解を深めている様子でした。英語に関しても日を重ねるごとに耳が慣れていき、積極的に発言や質問をするように変化していました。

プログラム最終日近くになって、「終わってしまうのが寂しいです」という参加者の発言には頼もしさを感じました。

最終日の試験を経て、合格した22名全員にサマープログラムのCertificateが授与されました。

今回の良かった点、反省点を整理し、来年度以降のプログラムをより充実したものにしていきたいと考えています。

また、参加者の感想文にもありますように、少しの勇気をもって一歩を踏み出すことが大事なことです。来年度も、たくさんの学生に挑戦してほしいと思います。

最後になりましたが、サマープログラム開講のためご尽力いただいた代表取締役の中森様はじめ、パレクセル・インターナショナル社の関係者の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。



お二人のDagmar先生

左側：Dagmar McCaughey 中央：Dagmar Peitsch



緊張の中、自己紹介からスタートしました



活発な！グループ・ディスカッション



全員にCertificateが授与されました

「医薬品開発のためのサマープログラム」を受講して

5年次生 池上 倫代

8/19から8/23の5日間、私は医薬品開発のためのサマープログラムに参加させていただきました。

私がサマープログラムに参加しようと思ったきっかけは、病院実習でCRCの方から仕事の内容を聞いたりと、病院に保管している治験の資料を見せていただける機会があり、治験そのものに興味を持っていたからです。そこでCRAとしてはどのように治験に携われるのだろうかという疑問に思い、今回の参加を決めました。

実際に始まってみると、講義はすべて英語で授業のスピードも速かったので、ついていくのが大変でした。しかしこのまま何も得られず終わってしまうのはもったいないと思ったので、グループで話し合う時間をセッションごとに作ってもらい、自由に質問できるように先生にグループを回ってもらうようにフィードバックしました。また治験の専門用語に関しては日本語で予習して授業に臨むようにしました。そのおかげで2日目3日目あたりから理解も深まり、授業が面白いと思えるようになってきました。また、拙い英語でも講師の先生は必ず聞き取って反応を返して下さるし、周りの友達もどんどん積極的に発言しているので、徐々にためらわずに自分から発言できるようにもなっていました。

国内の治験に関しては、少し4年次生の講義でも習いましたが、グローバル治験に関しては初めて学ぶことばかりで面白かったです。グローバル治験特有の必要書類や手続き、治験実施施設とのやり取りを素早く行うためのシステムがあることを知りました。またモニターの権限なども日本とは少し異なっていました。グローバル治験と国内の治験との違いを考えながら、この点に関してはどちらの方がいいのだろうかと考えながら授業を受けていました。

このプログラムではCRAとして現場で活躍されているOB・OGの方のリアルなお話も聞けるので、CRAに関心のある人は情報収集に最適だと思います。

しかし、まだ将来の進路をはっきり決めていない私のような学生にも本当に役に立つ講座でした。真剣に将来について考えて努力している京薬生や、それをサポートして下さる方が周りに多くいて、自分も頑張らなければいけないと思えました。自分の取り組む姿勢によって本当に多くの事が学べる講座なので、ぜひ来年からも多くの人にチャレンジしてみてほしいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な経験を与えてくださった多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

5年次生 渡邊 早由里

私が今回のサマープログラム(以下SP)を受講しようと思った動機は、臨床開発職の仕事について学ぶことが出来ると同時に、今後社会に出ていく上で必須になってくる英語に触れることが出来る良い機会であると考えたからです。SPでの5日間を通して特に感じたことは、臨床開発の仕事(企業、CRO含めて)に携わる上で語学が出来るということが大きなメリットになるということです。今回のSPを開催して下さったのが外資系のCROであったこともあり、本当に社員の方が語学に堪能な方ばかりでした。また日本でもグローバル治験が進められているため、業務として治験に関わる海外の方とのやり取りを行うためにも語学力は必須になってきております。現在、日本の多くの企業がグローバルに展開しており「グローバルに活躍できる人材を求めています」などとよく謳われておりますが、実際にグローバルに活躍できるとはどんな人物を指しているのだろうか?という疑問が生じておりました。しかし今回のSPを受講してその意味もよく理解することが出来ました。一言で言ってしまうと“語学が出来る人”となるのですが、ただ語学が出来る人ではなく、どの国の人ともコミュニケーションを取ることが出来るという意味が加わってきます。その例として挙げられるのが今回のSPの講義をして下さった講師の方の英語です。ドイツ出身でなまりの入った英語であったため、ネイティブの方に比べると聞き取りにくいと感じる部分が若干ありました。しかしこれがグローバルの本来の意味であり、どの国の方の話す英語でも聞き取り、会話できてこそグローバルに活躍することが出来る人材になるのだと感じました。またSPに参加していたどの学生も語学や学ぶということに対して積極的かつ意識が高く、大きな刺激を受けました。講義は全て英語で医薬品開発という難しい内容のプログラムではありますが、やり遂げた後の達成感は本当に大きく、このような自己成長出来る機会を頂けたことを本当に感謝しております。ぜひ多くの方にもこのような機会を大いに活用して頂けたらと思います。ありがとうございました。

5年次生 河西 翔平

僕がこのサマープログラムに参加しようと思った理由は、医薬品の開発においてCROがどのような役割を担っているのか、CRAの具体的な業務内容について知るいい機会であり、現在グローバル化が進む世の中で、ディスカッションなどを通じて実践的に国際共同治験について学べる良い機会であると思ったからです。また、授業が英語で行われるということもあり、普段英語を使う機会に恵まれていなかった僕にとって、このサマープログラムは国際共同治験にくわえて英語も一緒に学べるまたとないチャンスだ

と思い参加を決意しました。

実際授業がはじまってみるとグループ内でのディスカッション以外は本当にすべて英語で最初は全然聞き取れずこれから授業についていけるのか不安になり、正直このプログラムに参加したことを後悔しそうになりました。しかし、午前の授業が終わり、午後、二日目と授業がすすんでいくにつれて先生が話す英語に耳が慣れていきだんだんと聞き取れるようになっていき授業が楽しくなっていました。発表のポスターもはじめはどのグループも単調で要点を羅列したようなものでしたが、発表を重ねるごとにどのグループもポスターに工夫を凝らしディスカッションや発表を楽しむ余裕も出てきました。授業内容は教科書だけでなく、実際に国際共同治験の際に使用されている書類などを使ってエクササイズを行い実践的にモニタリング業務について学ぶことが出来ました。またCRAとして現在活躍されているOB・OGの先輩方からも色々なお話を聞くことができ、日本で行われているモニタリング業務と海外でのモニタリング業務の違いなど、おもしろいお話もたくさん聞くことが出来ました。

このサマープログラムを通じて、治験や英語だけでなく様々なことを学ぶことができ、自分の世界が広がる貴重な経験をすることが出来ました。最後にこのような機会を与えてくださった京葉スタッフ、パレクセルの方々に深く感謝いたします。

5年次生 小川 未佳代

私にとってこのサマープログラムの受講は挑戦でした。これまで、一般的な英語の教育しか受けたことがなく、またあまり海外にも行ったこともありませんでした。そのため1度英語にまみれた時間を過ごしてみたいという思いが強くありました。また、これまで具体的にイメージしづらかった医薬品開発についての内容を、CROのパレクセル社から学べるということもあり、今回の受講を決めました。

プログラムがはじまると、ネイティブの英語で淡々と進む授業に圧倒され、また一緒に受講している他のメンバーのスピーキング力、パレクセル社の日本人スタッフの英会話のスムーズさに衝撃を受けました。そんな中、わたしは少しでも授業の内容を理解しようということだけで精一杯で、自分の未熟さを感じました。

5日間で学んだことはたくさんあります。もちろん、これまであやふやなイメージしかなかったCRAの業務については、必要な書類1つ1つから説明いただいたおかげで自分の中ですごく具体的なものになりました。また、リスニング力も少しは向上したかもしれません。しかし、それらよりもわたしの中で1番大きかったのが、英語力の必要性を身をもって感じたことでした。パレクセル社のスタッフの方々は、

治験はグローバルスタディが進んできているとおっしゃっていました。またそのスタッフの方々には英語がペラペラの人が多く、話せないとおっしゃる方も英語は勉強しているとおっしゃっていました。きっとこの先、どの職種についたとしても英語を使う機会が増えるのではないかと考えます。いまのままでだめだ、もっと英語を勉強したい、勉強しなければならぬ、そう思えたことがわたしの1番の収穫です。

6年次生 大原 菜穂

私は、たまたま教務課の職員の方からこのプログラムの存在を教えてもらい参加することになりました。普段から外国の方々と交流することが好きな私にとっては、たった1万円を払うだけで海外旅行をしなくても英語に浸れるという絶好の機会でした。英語だけで治験を学ぶことに不安もありましたが、気になったことは挑戦してみないと気がすまない性分なので、5日間頑張ろうと決心しました。

そうはいつでも、授業初日はとても緊張しましたが。どんな授業なんだろう…間違えたら怒られるかな…自分だけついていけなかったらどうしよう…などたくさん不安がありました。しかし、実際はグルー

プごとに分かれて座るためディスカッションもしやすく、すぐに緊張はほぐれました。授業でわからないことは授業の途中にあるグループディスカッションで解消できます。また、講師の質問に変な答えをしてしまっても、講師の先生方はそれを上手にフォローしてくれます。一人ひとりの意見を受け入れ大切にしてくれます。とにかく手を挙げて自分の意見を言うことは大切だと実感しました。また、英語の授業とはいっても、日本語での知識があるとスムーズに理解ができるので、普段の授業をきちんと受け、理解しておくことはとても大切だと感じました。

このプログラムに参加して、CROの仕事をもっと具体的にイメージすることができました。プログラムで得た治験に関する知識を将来病院で働く際に役立てたいです。英語で伝えることはすごく難しかったのですが、上手く伝わったときはとてもうれしかったです。将来は外国の人と一緒に働ける仕事をしてみたいとすごく感じ、病院で何かそういう仕事を開拓したいという大きな夢ができました。学生最後の夏休みの貴重な体験となり、本当に参加してよかったです。

CRO : Contract Research Organization

CRA : Clinical Research Associate

CRC : Clinical Research Coordinator

エジプトのAlexandria Universityと 学術交流協定を締結

本学とAlexandria University (エジプト) は、2013年6月21日に学術交流協定を締結しました。

本学にて武田理事長、乾学長、後藤副学長、小暮教授、秋葉教授、赤路教授、村澤事務局長、松田次長および Alexandria UniversityのAdnan A. Bekhit 副薬学部長の出席のもと調印式が行われました。

両大学は今後、学生交流および研究交流を行っていく予定です。



京都薬科大学「京薬論集刊行会」主催 第11回文化講演会のお知らせ

日 時：11月2日(土) 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 躬行館2階 Q21講義室

講演者：坂本 尚志 氏

(京都薬科大学

基礎科学系一般教育分野 講師)

演 題：「文化と教育から見たフランス人」

講演者：竹内 誠 氏

(京都外国語大学

外国語学部 中国語学科 教授)

演 題：「当代中国事情閑話」

聴講無料です。当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみください。

第98回薬剤師国家試験の結果について

薬学教育研究センター 准教授 細井 信造

6年制薬学の2回目（第98回）の薬剤師国家試験が2013年（平成25年）3月2・3日に実施されました。前回（第97回）に比べ、単なる暗記ではなく、思考力を問う問題がより多く出題され、全体的に難易度が上がりました。実験データに基づいて考えさせる問

題や医療現場での実践的な問題、さらには新傾向の問題が数多く出題されるようになり、医療に軸足を置いた、実践力および問題解決能力が期待される6年制薬剤師にふさわしい内容に変わりつつあると言えます。

＜第98回薬剤師国家試験結果＞

表1. 国・公・私立別合格率

区分	総数			6年制卒			その他		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
国立	585名	475名	81.20%	508名	463名	91.14%	77名	12名	15.58%
公立	251名	211名	84.06%	232名	210名	90.52%	19名	1名	5.26%
私立	10,449名	8,243名	78.89%	9,817名	8,153名	83.05%	632名	90名	14.24%
その他	3名	0名	0.00%	—	—	—	3名	0名	0.00%
97回	9,785名	8,641名	88.31%	8,583名	8,182名	95.33%	1202名	459名	38.19%
98回	11,288名	8,929名	79.10%	10,557名	8,826名	83.60%	731名	103名	14.09%
本学	378名	353名	93.39%	364名	352名	96.70%	14名	1名	7.14%

さて、この試験では、国公私併せて71大学の学生が受験し、受験者総数11,288名中、合格者は8,929名（合格率79.10%）でした。前回は88.31%でしたので、約9%合格率が低下したことになります。6年制新卒の全国合格率は83.60%と前回に比べて約12%下がりました。また、4年制の既卒者の合格率は14.09%と前回に比べて一層悪くなっています。つまり、4年制卒業生が6年制国家試験に合格することは厳しいと言えます。本学では、新卒者356名が受験し、合格者は347名（合格率97.47%）、既卒者は4年制、6年制併せて22名が受験し、合格者は6名（合格率27.27%）で、総合合格率は93.39%でした。1期生に続いて高い合格率となりました。

第98回薬剤師国家試験では、第90回（2005年）国試と第91回の合格率の変動を根拠とし、難易度は上昇し、合格率は10%程度低下すると予想されましたが、まさにその通りの結果となりました。その中でも、本学が高い合格率を維持できた要因として、次の様なことが考えられます。1) 夏期講習および薬学特別

演習の出席率が非常に良かったこと、2) 薬学特別演習の講義スケジュールが基礎系科目から実務まで効率よく学習できるように組まれていたこと、3) 指定学生は講義後、さらにその日に学んだ内容に関する演習問題に取り組んだこと、4) 学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況等）を、当センターと分野間で共有できたこと、5) 当センターで質問対応や補講を行ったことが効果的な学習フォローアップにつながったと考えられます。

次に、今春卒業した本学学生の学業成績（専門必修講義科目の評定平均）と国試合否との関係を調べてみました。表2に示しますように、昨年度と同様、評定平均75点以上の卒業生は全員合格していますし、それ以下の学生層での不合格者が目立ちます。このことは、日ごろの学習が如何に大切かを物語っています。つまり、日々の勉学を怠らないことが必須のことですが、残念ながら評定平均が芳しくない学生が国試合格を目指すには、早期からの準備と一層の努力が必要と言えます。

表2. 評定平均*と合否との関係

評定平均	学生数	卒業生数	合格者	不合格者
95点以上	0	0	0	0
90点以上95点未満	1	1	1	0
85点以上90点未満	23	23	23	0
80点以上85点未満	50	50	50	0
75点以上80点未満	89	88	88	0
70点以上75点未満	114	112	111	1
65点以上70点未満	90	79	72	7
60点以上65点未満	4	3	2	1

* 専門必修講義科目の平均点

今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、6年制2期生に対して、国家試験の解答データの協力を要請したところ、356名の受験者中172名の協力がありました。表3に示しますように、総合正答率は77.6%と合格基準（65%）を大幅に上回っています。しかし、平均正答率30%未満の問題が、必須問題

で2題、薬学理論問題で8題、薬学実践問題で8題ありました。特に、一般問題では物理・化学・生物、衛生および病態・薬物治療の平均正答率が60%台と低かったことから、難易度が他の科目に比べて高かったと言えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題								
科目	物理 ・化学 ・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・ 薬物 治療	法規 ・制度 ・倫理	実務	合計	
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90	
最低点	9	5	10	11	8	6	6	68	
平均点	13.3	9.0	14.6	14.0	12.5	8.9	8.4	80.7	
最高点	15	10	15	15	15	10	10	88	
平均正答率	89.0%	89.6%	97.1%	93.1%	83.6%	88.6%	84.2%	89.7%	
問題区分	理 論 問 題								
科目	物理 ・化学 ・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・ 薬物 治療	法規 ・制度 ・倫理	合計		
問題数	30	20	15	15	15	10	105		
最低点	11	7	8	6	6	4	55		
平均点	19.3	12.7	13.3	11.6	9.7	8.1	74.9		
最高点	28	18	15	15	14	10	96		
平均正答率	64.3%	63.6%	88.9%	77.3%	64.8%	81.2%	71.3%		
問題区分	実 践 問 題								総 合 計
科目	物理 ・化学 ・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・ 薬物 治療	法規 ・制度 ・倫理	実務	合計	
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	
最低点	5	3	4	2	3	4	47	92	
平均点	9.4	7.7	8.2	7.1	6.0	7.2	66.3	112.2	
最高点	15	10	10	10	9	10	77	137	
平均正答率	62.8%	76.9%	81.8%	71.3%	60.4%	72.4%	78.0%	74.8%	

＜第99回薬剤師国家試験に向けて＞

今回の国家試験問題の難易度は第98回と同程度かもしくは若干上がるのではと予想しています。何れにせよ、6年制薬学にふさわしい、より実践的な内容が出題されるでしょう。まずは国家試験の合格基準を確認し、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めることが重要と思います。なかでも基礎系科目、すなわち物理、化学、生物は大切です。第98回国家試験では、総合で合格基準（65%）をクリアしていながら、ボーダーラインに引っ掛かったために不合格となった卒業生が数名いました。是非とも苦手意識を払拭し、弱点を克服してください。6年制薬剤

師国家試験では出題される内容が偏ることなく、出題されると予想されていますので重要項目を中心に幅広く勉強することが大切です。仮に過去問が出題されることがあっても、そのままの形で出題されることはなくなってきています。とは言いましても過去問を無視することはできませんし、過去問のみでは合格できません。1期生および2期生の先輩の合格率の高さは一生懸命に勉強した結果です。先輩に続いて良い結果となることを切に願っています。努力は決して皆さんを裏切りません。Bon courage！

滋賀医科大学－京都薬科大学 第1回ジョイント・シンポジウム

研究科長 小暮 健太郎

2013年5月29日16時から京都薬科大学躬行館3階T31講義室において、滋賀医科大学－京都薬科大学 第1回ジョイント・シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、これまでも交流のあった滋賀医科大学と京都薬科大学において、研究レベルでのより密な交流へと発展させることを目的としたものであり、第1回目は、京都薬科大学がホスト校となり、両大学の研究概要を紹介し合うという主旨で以下の次第により開催された。

ジョイント・シンポジウム（16：00～18：40）

開会

挨拶 京都薬科大学長 乾 賢一

滋賀医科大学研究トピック概要紹介（理事・副学長 服部 隆則）

滋賀医科大学重点研究プロジェクト紹介（1）

神経難病研究について（分子神経科学研究センター長 教授 遠山 育夫）

滋賀医科大学重点研究プロジェクト紹介（2）

カニクイザルを用いた研究について（病理学講座 教授 小笠原 一誠）

京都薬科大学研究トピック概要紹介（研究科長・教授 小暮 健太郎）

京都薬科大学研究紹介（1）

疾患メタロミクスと亜鉛製剤による糖尿病治療研究（代謝分析学分野 教授 安井 裕之）

京都薬科大学研究紹介（2）

各種DDS技術を用いた薬物投与の最適化ならびに疾患治療効果の改善（薬剤学分野 教授 山本 昌）

総評 滋賀医科大学長 馬場 忠雄

閉会

懇親会（19：00～20：00）

開会挨拶 京都薬科大学長 乾 賢一

乾杯 滋賀医科大学長 馬場 忠雄

～ 歓談 ポスター展示 ～

閉会挨拶 京都薬科大学 副学長 後藤 直正



参加者

シンポジウム 155名（滋賀医科大学：25名・京都薬科大学：130名）

懇親会 90名（滋賀医科大学：16名・京都薬科大学：74名）

シンポジウムでは、滋賀医科大学の服部副学長より滋賀医科大学が取り組んでいる研究プロジェクトの概要を紹介いただき、続いて遠山教授と小笠原教授より2つの研究プロジェクトの詳細を説明いただいた。同様に京都薬科大学の小暮研究科長より京都薬科大学で行われている研究の概要の紹介があり、安井教授と山本教授より2つの研究トピックについて詳細な説明がなされた。参加した双方の教員から各講演に対する質問があり、予定した時間を超えてのシンポジウムとなった。また懇親会には、滋賀医科大学から16名、京都薬科大学から大学院生も含めて74名が参加した。今回の懇親会では、会場に京都薬科大学の分野・センターにおける研究内容のポスターを掲示し、滋賀医科大学の先生方に本学の研究を少しでも理解していただけるように工夫を凝らした。その効果もあり、滋賀医科大学の先生方と本学の教育職員との間で、終始和やかな歓談が行われた。



第4回KPUシンポジウム

KPUシンポジウム実行委員会

2013年5月1日（水）、京都薬科大学・躬行館T31講義室において第4回KPUシンポジウムを開催いたしました。特別講演として東京大学医学部附属病院・薬剤部の大野能之先生ならびに武田薬品工業株式会社・癌創薬ユニットの岡庭正格先生をお招きして、それぞれ「医療現場におけるファーマシスト・サイエンティストの役割～僕が薬剤師として研究をしている理由～」および「癌治療薬の創製を目指す企業研究～経口RAF/VEGFR2キナーゼ阻害薬の探索合成研究～」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として鳥羽裕恵助教、濱進講師および高田和幸助教の3名の学内教員による最新の研究成果について発表して頂きました。合計371名の多くの学生や教員の方々ご参加くださいました。また、シンポジウム終了後に開催した交流会では、多くの学部学生が特別講演者の大野先生や岡庭先生、また一般講演者の先生方を囲んで質問をしており、18時30分過ぎまで活発な討論が続きました。今回も座長先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPUシンポジウム実行委員会一同

シンポジウム概要

日時：2013年5月1日（水） 13:30～17:20

場所：京都薬科大学躬行館 T31講義室

開会の挨拶 乾 賢一 学長

特別講演（1）13時40分～14時30分 座長：西口 工司 教授

「医療現場におけるファーマシスト・サイエンティストの役割
～僕が薬剤師として研究をしている理由～」

東京大学医学部附属病院・薬剤部 大野 能之 助教

特別講演（2）14時40分～15時30分 座長：赤路 健一 教授

「癌治療薬の創製を目指す企業研究
～経口RAF/VEGFR2キナーゼ阻害薬の探索合成研究～」

武田薬品工業株式会社・医薬研究本部・癌創薬ユニット 岡庭 正格 主任研究員

一般講演（1）15時40分～16時10分 座長：芦原 英司 教授

「アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬テルミサルタンのPPAR γ 活性化作用を介した
慢性腎臓病治療薬としての有用性の検討」

鳥羽 裕恵 助教（臨床薬理学分野）

一般講演（2）16時10分～16時40分 座長：藤室 雅弘 教授

「がんの悪性化を支配する微小環境に着目した新規がん診断・治療法の開発」

濱 進 講師（薬品物理化学分野）

一般講演（3）16時40分～17時10分 座長：大矢 進 教授

「ミクログリアの機能解析からアルツハイマー病の新規治療戦略の開発へ」

高田 和幸 助教（病態生理学分野）

閉会の挨拶 長澤 一樹 教授

交流会 17時20分～18時40分

参加人数：371名

1～2年次生：75名、3～6年次生：231名、大学院博士課程学生：13名、その他：5名



シンポジウムにおける講演および交流会の様子

卒業生からのメッセージ

出会いを大切に

首藤 弘樹



2008年 学部卒業
 (薬物治療学分野)
 2010年 博士前期課程修了
 (薬品物理化学分野)
 日東薬品工業株式会社
 研究開発本部 製剤研究課 主任

私が京都薬科大学に入学したのは今から9年前で、その当時はちょうど愛学館を工事しており、入学式は工事中ということもありかなり狭かった印象を持っていました。しかし入学してまもなく愛学館が完成し、2年次生からはそのきれいな校舎で授業や再試験を受けていたことを今でもよく覚えています。学部時代はクラブ活動や研究室配属を通し、たくさんの仲間ができ、また多くの新しいことを経験・体験することができ大学生活に没頭しておりました。大学院からはより専門的になり、1日の大半の時間を研究に費やしており、終電を逃すことも度々あったかと記憶しています。また学会での発表の機会等も与えていただき、大学院での研究室生活を通して知識の幅を広げることができたと思っています。

大学院修了後は日東薬品工業株式会社に入社し、現在まで製剤研究の業務に携わっています。仕事内容としては、有効成分の配合量や剤形が決定してい

る中で、賦形剤の処方や製造条件等を考えながらその目的とした医薬品を創るという業務に携わっています。まずは数kgという小さなスケールから検討を行い、最終的には工場で数百kgという規模で製造ができるかを検討しています。この仕事を通して感じたことは、やればやるほど奥が深い分野だなと感じています。例えば錠剤だと賦形剤の組み合わせや各製造工程での製造パラメーターの条件検討、打錠工程では打錠障害が起こらないか…等多くのことを注意深く評価しながら進めていかなければなりませんし、また工場では1年を通して安定的に製造ができなければ消費者の皆様に薬を届けることができないため非常に緊張感を持って日々取り組んでいるところです。

このような日々の生活の中、プライベートでは現在も学生時代の研究室やクラブのメンバーとは連絡を取り旅行や食事をするなど、私にとっては良い息抜きができています。社会人になると自分の仕事分野以外の人と触れ合う機会が少なくなりがちですが、大学時代からの友人や先輩方はいろいろな分野で活躍されており、このような方々とふれあうことで多くの新鮮な話を聞くことができ良い刺激となっています。大学での勉強や研究室での研究もちろん大切ですが、クラスやクラブ活動、研究室等で出会った方々や、またこれから出会う友達や先輩方を大切にし、学生時代にしかできないことをたくさん経験し、これからの人生の糧にしていってください。

第5回学生満足度調査 集計結果

学生満足度調査プロジェクトチーム

本学では2009年度から、2～6年次生までを対象とした「学生満足度調査」を実施しています。2013年度の調査では568名の学生の皆さんに調査にご協力いただきました。勉強やクラブ活動が忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

学生の皆さんから寄せられた声は本学の全職員で共有し、今後の教育・研究等の改善に役立てていきたいと考えています。今後も皆さんの声をお寄せ下さい。

なお、全学的な取組として改善が必要な項目につきましては、大学の第2期中期計画に盛り込み、改善に取り組めます。改善結果については追って報告いたします。

＜学生満足度調査の実施概要について＞

(1) 実施対象について

学部2～6年次生

(2) 記名・無記名について

無記名方式

(3) アンケート配付期間について

2013年5月8日（水）～10日（金）

※5・6年次生は各分野にアンケート用紙を配付

(4) アンケート回収期間について

2013年5月17日（金）まで

(5) 回収数

568部

＜学生満足度調査結果＞

(1) はじめに

①性別

No	回 答	2013年度		2012年度		2011年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性	130	22.9%	192	27.6%	194	26.6%
2	女性	431	75.9%	500	71.8%	533	73.1%
	無回答	7	1.2%	4	0.6%	2	0.3%
	計	568	100.0%	696	100.0%	729	100.0%

②学年

No	回 答	2013年度		2012年度		2011年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	2年次	172	30.3%	203	29.2%	235	32.2%
2	3年次	116	20.4%	170	24.4%	155	21.3%
3	4年次	119	21.0%	133	19.1%	118	16.2%
4	5年次	83	14.6%	91	13.1%	127	17.4%
5	6年次	69	12.1%	95	13.6%	93	12.8%
	無回答	9	1.6%	4	0.6%	1	0.1%
	計	568	100.0%	696	100.0%	729	100.0%

(2) 京都薬科大学の魅力

No	回 答	2013年度		2012年度		2011年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	伝統があり、多くの卒業生を輩出している	350	26.9%	425	27.4%	430	27.5%
2	学力水準が高く、知名度が高い	154	11.9%	211	13.6%	251	16.0%
3	高い研究力	76	5.9%	95	6.1%	78	5.0%
4	最先端の薬学教育を受けることができる	41	3.2%	51	3.3%	47	3.0%
5	施設や設備が充実している	140	10.8%	163	10.5%	146	9.3%
6	高い就職率	190	14.6%	119	7.7%	89	5.7%
7	立地条件が良い	177	13.6%	237	15.3%	234	15.0%
8	京都の街	142	10.9%	211	13.6%	254	16.2%
9	その他（下記自由記述欄に記入して下さい）	10	0.8%	15	1.0%	14	0.9%
	無回答	19	1.5%	26	1.7%	21	1.3%
	計	1299	100.0%	1553	100.0%	1564	100.0%

(3) 京都薬科大学の教育・研究

No	質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2013年度平均点	2012年度平均点	2011年度平均点
Q7-1	シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	75	446	33	3	11	568	3.1	3.0	2.9
Q7-2	教養科目(人と文化)は充実している	36	353	124	42	13	568	2.7	2.4	2.3
Q7-3	基礎演習の内容は充実している	66	401	77	10	14	568	2.9	-	-
Q7-4	早期体験学習のプログラムは充実している	75	404	66	10	13	568	3.0	2.7	2.8
Q7-5	英語科目には満足している	33	270	155	100	10	568	2.4	-	-
Q7-6	選択外国語科目には満足している	54	301	128	67	18	568	2.6	-	-
Q7-7	補講等、授業以外の学習支援体制には満足している	64	397	73	16	18	568	2.9	-	-
Q7-8	専門科目には満足している	99	410	44	2	13	568	3.1	2.9	2.9
Q7-9	専門科目実習には満足している	111	402	36	6	13	568	3.1	2.9	2.9
Q7-10	総合薬学研究・演習の分野選択に関する情報・期間は足りていた	52	139	56	18	6	271	2.8	-	-
Q7-11	総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる	86	146	27	6	6	271	3.2	3.0	2.9
Q7-12	総合薬学研究・演習の定員は適切である	50	151	49	16	5	271	2.9	2.8	2.6
Q7-13	病院・薬局実習には満足している	43	127	23	6	72	271	3.0	-	-

(4) 京都薬科大学の学生サポート

No	質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2013年度平均点	2012年度平均点	2011年度平均点
Q9-1	学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	213	292	41	7	15	568	3.3	3.2	3.2
Q9-2	クラブ活動に対して十分な資金援助が行われている	50	343	105	26	44	568	2.8	2.6	2.6
Q9-3	クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	66	315	111	36	40	568	2.8	2.6	2.5
Q9-4	奨学金制度は充実している	59	348	94	26	41	568	2.8	2.7	2.7
Q9-5	困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	52	211	198	91	16	568	2.4	2.2	2.1
Q9-6	困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	35	199	225	92	17	568	2.3	2.1	2.1
Q9-7	各種証明書の発行日数には満足している	71	347	105	27	18	568	2.8	2.7	2.7
Q9-8	下宿先の紹介制度が充実している	25	300	145	45	53	568	2.6	2.4	2.3
Q9-9	授業に関すること、呼出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	75	334	95	42	22	568	2.8	-	-

(5) 京都薬科大学の施設・設備

No	質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2013年度平均点	2012年度平均点	2011年度平均点
Q11-1-A	施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等 含む)	163	352	33	6	14	568	3.2	3.1	3.1
Q11-1-B	施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等 含む)	161	348	41	4	14	568	3.2	3.1	3.1
Q11-1-C	施設・設備が充実している 自習室	93	300	126	32	17	568	2.8	2.8	2.8
Q11-1-D	施設・設備が充実している 駐輪場	106	346	56	23	37	568	3.0	2.9	2.8
Q11-1-E	施設・設備が充実している ロッカー室	83	329	102	38	16	568	2.8	2.7	2.6
Q11-1-F	施設・設備が充実している 掲示板	90	341	83	40	14	568	2.9	2.8	2.7
Q11-1-G	施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	140	336	60	17	15	568	3.1	3.0	3.0
Q11-2	研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	130	304	42	14	78	568	3.1	-	-
Q11-3-1-A	食堂施設が充実している(愛学館—メニュー)	86	302	114	49	17	568	2.8	2.7	-
Q11-3-1-B	食堂施設が充実している(愛学館—価格)	78	310	125	38	17	568	2.8	2.6	-
Q11-3-1-C	食堂施設が充実している(愛学館—利用環境)	41	183	223	104	17	568	2.3	2.1	-
Q11-3-2-A	食堂施設が充実している(躬行館—メニュー)	59	250	175	64	20	568	2.6	2.4	-
Q11-3-2-B	食堂施設が充実している(躬行館—価格)	56	280	151	61	20	568	2.6	2.4	-
Q11-3-2-C	食堂施設が充実している(躬行館—利用環境)	46	213	192	98	19	568	2.4	2.1	-
Q11-4	図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービスも含む)	122	322	90	14	20	568	3.0	2.9	3.0
Q11-5	文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	93	322	110	25	18	568	2.9	2.7	2.7
Q11-6	憩いのスペースが充実している	69	292	150	33	24	568	2.7	2.6	2.7
Q11-7-A	安全・衛生管理が行き届いている セキュリティー	133	353	54	10	18	568	3.1	3.1	3.0
Q11-7-B	安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	140	371	30	9	18	568	3.2	3.1	3.0
Q11-7-C	安全・衛生管理が行き届いている 清掃	247	284	17	4	16	568	3.4	3.4	3.4

(6) 京都薬科大学の進路支援

No	質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2013年度平均点	2012年度平均点	2011年度平均点
Q13-1	進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	52	87	105	303	21	568	1.8	1.6	1.5
Q13-2	進路支援課購接の資料室を利用したことがある	45	89	104	309	21	568	1.8	1.6	1.5
Q13-3	進路ガイダンス・セミナーの内容はわかりやすい	49	294	152	42	31	568	2.7	2.6	2.6
Q13-4	進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	54	326	117	41	30	568	2.7	2.6	2.5
Q13-5	学内公募型インターンシップ制度が充実している	26	268	163	57	54	568	2.5	-	-
Q13-6	学内合同企業説明会(企業・病院・薬局・公務員)が充実している	48	325	99	35	61	568	2.8	-	-
Q13-7-A	進路支援サービスが充実している(エントリーシート・履歴書等の添削)	32	29	2	3	69	69	3.4	-	-
Q13-7-B	進路支援サービスが充実している(模擬面接・グループディスカッション対策)	23	34	5	2	5	69	3.2	-	-
Q13-7-C	進路支援サービスが充実している(求人情報の提供)	21	38	8	1	1	69	3.2	-	-
Q13-7-D	進路支援サービスが充実している(企業・病院・薬局等の情報提供)	16	43	8	1	1	69	3.1	-	-
Q13-7-E	進路支援サービスが充実している(その他相談に対する対応)	26	36	3	1	3	69	3.3	-	-
Q13-8	5年次3期実務実習中(1月～3月)の進路支援体制が充実している	18	34	8	3	6	69	3.1	-	-

(7) 総合評価

No	回答	2013年度		2012年度		2011年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	1. まったく満足していない	4	0.7%	5	0.7%	13	1.8%
2	2	3	0.5%	15	2.2%	24	3.3%
3	3	22	3.9%	32	4.6%	39	5.3%
4	4	18	3.2%	26	3.7%	39	5.3%
5	5. どちらとも言えない	58	10.2%	94	13.5%	83	11.4%
6	6	90	15.8%	109	15.7%	124	17.0%
7	7	153	26.9%	165	23.7%	189	25.9%
8	8	150	26.4%	148	21.3%	160	21.9%
9	9	35	6.2%	32	4.6%	31	4.3%
10	10. 非常に満足している	5	0.9%	9	1.3%	6	0.8%
	無回答	30	5.3%	61	8.8%	21	2.9%
	計	568	100.0%	696	100.0%	729	100.0%
	平均点	6.7		6.4		6.3	

平均点 : 6.7

※2012年度調査時の平均点は6.4点
2011年度調査時の平均点は6.3点

2013年度大学説明会の学外開催の結果について

入試課

今年度で4年目を迎える学外での大学説明会を、8月25日(日)及び9月1日(日)に開催しましたが、両日も天候に恵まれず大雨や台風接近の中での開催となりました。その影響からか、参加者合計32名(前年比52.5%)と昨年度を大きく下回る結果となりました。8月25日(日)は福岡会場(JR博多シティ会議室)・岡山会場(オルガビル)、9月1日(日)は広島会場(RCC文化センター)・三重会場(じばさん三重)・鳥取会場(米子コンベンションセンター)の5会場で開催しました。福岡会場は新規会場で九州地域で初めての大学説明会開催となりました。

大学説明会の内容(時間)は、受付(13:30～16:00)、

大学紹介(14:00～14:50)、相談会(15:00～16:30)を行いました。開催地以外の遠方からの参加者や、本学のオープンキャンパスに参加し、さらに今回の大学説明会に参加された方もおられ、本学に対する関心の高さがうかがえました。参加者からは「近くで説明会を開催して頂きとても助かります」「今回の説明会でさらに本学への入学の意思が強くなった」との声をいただきました。

全体的に天候も影響し参加者数は減りましたが、今後は広報の時期を早める等見直し、きめ細やかな説明会を心掛けていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

日程	開催地 (都道府県)	高校1年生	高校2年生	高校3年生	既卒生	その他	付添者	合計
8月25日(日)	福岡 (福岡県)	0名	0名	1名	3名	0名	2名	6名
8月25日(日)	岡山 (岡山県)	0名	0名	2名	0名	3名	6名	11名
9月1日(日)	広島 (広島県)	0名	0名	1名	0名	0名	7名	8名
9月1日(日)	米子 (鳥取県)	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名
9月1日(日)	四日市 (三重県)	0名	0名	3名	0名	0名	2名	5名
合計		0名	0名	7名	3名	3名	19名	32名



福岡会場



岡山会場

2013年度 6月、8月のオープンキャンパス開催

入試課

～ 6月のオープンキャンパス ～

6月9日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

受験生、付添者を合わせて349名（前年比：117.9%）の参加者がありました。躬行館T31講義室を会場とし、「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長挨拶」では、乾学長から「輝ける薬学の近未来」というテーマで、本学の目指すファーマシスト・サイエンティストの育成について話をいただきました。「大学紹介」では、安井入試広報委員長から、わかりやすく本学の説明が行われました。

「在学生の話」では、6年次生 家原由貴さんに研究室、病院・薬局実習、アルバイト等の体験に基づいた大学生活全般の話をしていただきました。「卒業生の話」では、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団に勤務されている伊賀瑞紗先生に本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をしていただきました。「在学生の話」、「卒業生の話」とともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館、臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。躬行館食堂で実施した「相談会」には、157名（前年比：116.3%）の相談者があり、入学試験や学生生活、奨学金や就職などの相談がありました。

は、「施設がとても充実していた」などの声が多く聞かれました。

相談会は、躬行館食堂で実施しました。両日合計418名（前年比：106.1%）の相談者があり、教育職員、事務職員、在学生が相談に応じました。参加者からは、「親身に教えてくれた」、「在学生と話せて一番ためになった」などの感想をいただきました。

関係者の皆様には、ご多忙中、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



学長挨拶



施設見学



体験実習



相談会

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月3日（土）・4日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日とも酷暑となりましたが、1,530名（前年比：108.1%）の参加者がありました。

薬学6年制開始以降最高の人数となり、躬行館T31・Q31講義室の2会場で「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。2会場となったため、「在学生の話」は、鶴田弘明さん・芝本真紀子さん（8/3）、角田隆紀さん・伊勢原茉莉花さん（8/4）（共に6年次生）の4人に実施してもらい、両日とも好評でした。

参加者からは、大学紹介について「大学の方針や理念がよく分かった」、在学生の話については、「学生の視点からの研究や生活面が良くわかった」、体験実習については、「貴重な体験ができて良かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学について

2013年度 8月のオープンキャンパス集計結果（受験生・高校生）

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット（本学のホームページ）	418	66.5
2	高校の進路指導または資料	112	17.8
3	家族または親戚	83	13.2
4	オープンキャンパスのチラシ・DM	71	11.3
5	先輩・友人・知人	70	11.1
6	予備校	9	1.4
7	新聞	6	1.0
8	受験雑誌など	5	0.8
9	その他	4	0.6
10	無回答	1	0.2

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	474	75.4
2	実験・研究などの施設・設備の確認	289	45.9
3	入試情報の確認	279	44.4
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	191	30.4
5	就職状況や進路指導の確認	155	24.6
6	授業内容の確認	151	24.0
7	薬剤師国家試験対策についての確認	144	22.9
8	研究内容の確認	141	22.4
9	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	131	20.8
10	薬学6年制の確認	94	14.9
11	クラブ・サークル活動などの確認	93	14.8
12	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	85	13.5
13	病院・保険薬局実務実習の確認	82	13.0
14	在学生の確認やコミュニケーション	58	9.2
15	学生相談・サポート体制の確認	25	4.0
16	教育職員及び事務職員の確認や相談	21	3.3
17	その他	11	1.7
18	無回答	5	0.8

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	266	42.3
2	検討中	218	34.7
3	推薦入試	217	34.5
4	A方式（センター前期）	151	24.0
5	C方式（センター後期）	32	5.1
6	無回答	19	3.0

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？（全体）

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	399	63.4
2	まあ良かった	186	29.6
3	あまり良くなかった	3	0.5
4	全く良くなかった	0	0.0
5	無回答	41	6.5
合計		629	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	313	49.8
2	少し受験意欲が高まった	259	41.2
3	変わらなかった	51	8.0
4	少し受験意欲が減退した	1	0.2
5	かなり受験意欲が減退した	1	0.2
6	無回答	4	0.6
合計		629	100.0

※有効回答アンケート数：629

2013年度 6月、8月のオープンキャンパス参加人数

2013年6月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計
6月9日（日）	207名	142名	349名
昨年度	191名	105名	296名

2013年8月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月3日（土）午前	269名	158名	427名	444名
午後	154名	96名	250名	187名
小計	423名	254名	677名	631名
8月4日（日）午前	374名	213名	587名	569名
午後	160名	106名	266名	216名
小計	534名	319名	853名	785名
合計	957名	573名	1,530名	1,416名
昨年度	896名	520名	1,416名	

2013年度京都薬科大学給付型奨学生

学生課

本学は学生の修学支援を強化するため、従来からの貸与型奨学金に加え、2010年度から、給付型奨学金および授業料減免型奨学金制度を創設しました。2013年度からはさらに修学支援を充実させるため、給付型奨学金および授業料減免型奨学金の増額や対象人数の増員等を行いました。

給付型奨学金は、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図るため、成績優秀者に対して奨学金を給付するものです。今年度の給付型奨学生対象者は、新入生については、入試成績が特に優秀であった学部新入生10名・大学院新入生3名。在学生については、前年度の成績が優秀な2年次生から5年次生の各学年20名。1～5年次の総合成績が特に優秀な6年次生20名の合計100名が選考され奨学金が支給されました。

また、表彰式が6月17日に躬行館T31講義室において行われ、武田理事長から表彰状が授与されました。

なお、授業料減免型奨学金は、経済的な事情から修学困難に陥った学生に対する緊急支援として授業料を減免するものです。

2008年12月から学生の修学支援のために募集を開始した奨学寄附金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、教育後援会会員等の皆様から、ご寄附を頂戴しております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続き資金のご支援をよろしくお願いいたします。

学部新入生		学部在学生					
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
大前 滯		浅田裕美子	青木 沙織	赤谷 祥子	齋藤 真奈	芥田賀奈子	
許 千晴		足尾 真美	上川 翼	今井 梓嵯	池上 倫代	浅野 理子	
中條 悠		飯間 莉紗	宇田 歩未	岩貞 有紀	井田安紀子	上原左知代	
津田 基		梅原 祐奈	小川 裕樹	上野 貴紀	今里 彩乃	岡田麻友子	
鶴見さやか		梶木 香里	川上 光	大前 敬子	岡崎 秀太	岡本真奈美	
平井 里沙		草野 穂	岸本 翔	梶山あゆみ	岡田 真沙	加藤 夢可	
蓬萊 真美		坂下 透子	幸前 里奈	島田 裕規	川岸 良佑	河野 大貴	
堀内麻利安		杉浦 真優	小山菜々子	鈴木 智子	岸 一俊	河原奈津美	
松村 祐治		杉本みなみ	佐分利智子	関 奈緒子	金高こころ	鷹見 明奈	
山中 三佳		砥上 宏子	富永 南	田中 千尋	樽井 恵	成岡 里紗	
		友金 眞光	中尾佳那美	辻 栞	藤堂 未央	西尾 直子	
		西澤ひかる	西 貴之	辻村 真里	中島なぎさ	濱口なつめ	
		林 梨沙	西本 明功	利川 麻美	長戸 優也	藤田 翔	
		藤田 利沙	橋本みさき	内藤 千尋	古川 琴詠	藤原まどか	
		古川 奈美	福島 謙雄	廣田亜里紗	古田 早紀	南谷 怜亜	
		村田 紘規	藤原麻紀子	福田 浩紀	別府 梨沙	三宅 佑美	
		矢木夕美子	本城 綾子	松井 宏樹	松浦 悟	宮崎 理恵	
		矢崎由希子	松本 卓也	松本遼太郎	松尾 綾	村田 梨香	
		山添 晶子	吉田 健吾	山田佳菜枝	森下 理恵	森田 梓実	
		山田 千草	渡辺 絢音	渡部 碧衣	山田 麻理	和下田真美	

大学院新入生

太田 智絵
山本 涼子
中村 伊吹



2013年度 給付型奨学生表彰者

証明書の自動発行機を設置しました！

学生課

学生の皆さんから要望の高かった、証明書の自動発行機を設置しました。これにより各種証明書が即日発行できるようになりましたので、在学生の皆さんにとって、大変利便性が良くなります。ただし、英文証明書が必要な方は今まで通り、学生課まで申請してください。

発行時に必要なものは、学生証・パスワード・手数料（変更なし）です。

※卒業生の方は自動発行を受けられません。

発行できる証明書の種類（和文のみ）

種 類	手数料	備 考
学割証	無 料	1日につき2枚、年間10枚
通学証明書	無 料	
在学証明書	200円	
卒業（修了）見込証明書※1	200円	
成績証明書※1	200円	
健康診断証明書※2	500円	

※1：使用目的が就職・進学の場合、卒業（修了）見込証明書と成績証明書の手数は無料です。

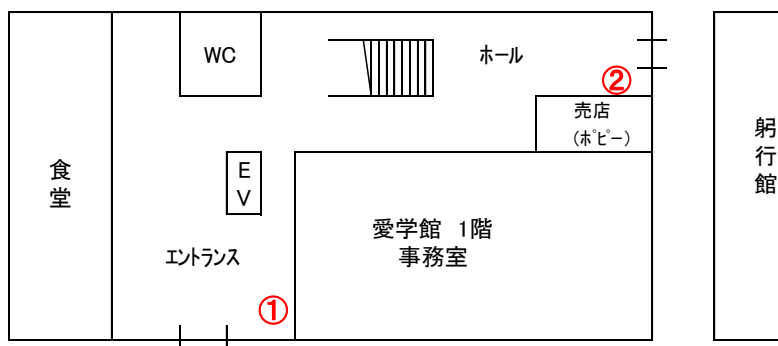
発行手順の詳細については、別途進路支援課からお知らせします。

※2：健康診断証明書は学年や個人によって、発行できない場合があります。その場合は、学生課まで申請してください。

自動発行機の設置場所と稼働時間

設置図	場 所	台数	月～金	土
①	愛学館1階 正面玄関横	1台	8：30～20：00	9：00～17：00
②	愛学館1階 ポピー横	1台		

設置図



日祝および大学一斉休業中（夏季・年末年始）は稼働しません。また、機器のメンテナンスや障害等により稼働できない場合もありますのでご了承ください。

また自動発行機のトラブル時は愛学館1階事務室へ連絡をお願いします（事務室閉室後の対応は翌日以降）。

学生相談室だより

学生課

今回は、一人でもできるリラックス方法をご紹介します。

リラックス効果のある呼吸法について

背もたれのある椅子に座ります。深からず浅からずに腰をかけ、姿勢を整え、目を閉じます（この時、腕時計やメガネ等の体を締め付けているものは外します。ベルトは緩めておきます）。手は腿の上でもお腹に軽く当ててもいいです。

- ① まず、息を口からゆったりと吐き出します。
「ふう〜〜〜〜〜〜〜」
- ② 次に、鼻から息を吸っていきます。
「1、2、3」と頭の中で数えながら吸います。
- ③ そして「4、5」でいったん呼吸を止めて、「5、6、7、8、9、10」でゆっくりと息を吐き出します。「ふう〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜」
ポイントは、吸う時間の2倍以上の時間をかけて吐くこと。吐く時に、日頃の疲れや不満などを一緒に吐き出すことを想像しましょう。
- ④ 後は、①〜③を1セットとし、だいたい3回繰り返します。
（出典：藤原忠雄
「学校で使える5つのリラクゼーション技法」）

深い呼吸は心身のバランスを整える手助けをしてくれます。でも「そんなに簡単にリラックスできない…」という方は、一度学生相談室をのぞいてみてください。

臨床心理士による相談

【相談時間】

月曜日 10：00～17：00 角野 冴子
火曜日 10：00～17：00 瀬戸 和佳子
水曜日 9：30～13：30 三溝 雄史
（男性カウンセラーです！）
木曜日 10：00～17：00 角野 冴子
金曜日 9：30～16：30 小谷 典子

【相談室の場所】

愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム
（※2013年10月に育心館4階へ移転予定）

【予約・問い合わせ先】

予約制ですので、相談を希望される場合は学生課窓口で直接申し込むか、電話またはメールにてご連絡ください。

電話（学生課）：075-595-4614

メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

【受付担当】

学生課・医務室 飯塚まで

第7回 自治会執行部主催 七夕企画

今年も6月中旬から七夕当日にかけて、七夕企画を実施致しました。これは愛学館入り口付近に笹を設置し、愛学館に訪れた方々に願い事を書いてもらうという企画です。

短冊には、勉強、部活動、恋愛や私生活に関することなど、さまざまな願い事が書かれていました。

七夕企画実施にあたり、協力していただいた学生課や教育後援会をはじめ、企画に参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。



クラブだより

軽音楽部

入部した後に同学年と自由にバンドを組みます。練習はバンド単位で自由に決められます。

全バンドが出演するライブもあり、出演希望者によるライブもあります。夏には1週間程の楽しい合宿もあります。

また、大学内でもかなり人数の多いクラブなので、知り合いが増えます。食堂に行くと必ず誰か一人は軽音楽部の人に会います。

「医療の担い手プロジェクト」 ～医療を担う学生よ集えい！～ の開催 教務課

2013年6月29日（土）に、京都薬科大学において、日本医学会総会2015関西「医療チーム学生フォーラム」のイベントとして、本学3名の実行委員が中心となり、関西の医学部・薬学部・看護学部3学部学生の合同勉強会を開催しました。

100名程度の参加者により、各学部のカリキュラム紹介、チーム医療についてディスカッションおよびロールプレイ、記念講演等が行われ、積極的に交流し、将来に向けて貴重な経験となりました。

本学から参加した実行委員およびスタッフの感想を紹介します。



参加者全員で記念撮影

リーダー 4年次生 岩貞 有紀

第1回医療の担い手プロジェクトを終えて、私達実行委員はもちろん、参加者の方々にとっても、将来のこと、自分自身のこと、他学部のことなど多くのことを知るための良いスタートがきれたのではないかと考えています。

私自身、今回の企画から本当にたくさんのことを学びました。当初の目的であった他学部のことについて知ることができ視野が広がったのはもちろんですがリーダーシップの重要性について特に考えさせられました。部活動のように決められたレールの上を進んで行くのではなく全く新しいものを作り上げていくうえでリーダーとして多くの壁にぶつかりました。そしてその時に思ったことが私に足りなかったのはリーダーとしての覚悟だと思いました。こういった企画に携わることで将来のことについて考えられることも重要ですが学生のうちに覚悟などのような精神面を鍛えることが大切ではないかと思いました。精神力は目にはみえませんが学生のうちにできることでかつ確実に将来の自分の力になるものだ強く思いました。第2回、第3回とよりよい企画をみんなで作り上げて頑張っていこうと思います。

最後になりましたが御協力いただいた先生方ありがとうございました。

実行委員 3年次生 浅野 瑛

医療の担い手プロジェクトで行ったロールプレイングを私は担当しました。RPをすることで自分の勉強不足や学部についての発見。また違う職種のRPをしてみることで他学部への理解が深まったと思います。他学部との交流は将来役に立つと実感できるイベントでした。

実行委員 2年次生 吉留 利香

医療の担い手プロジェクトを終えて私は今回、このイベントの総合司会を務めました。準備期間が3ヶ月と短い中で、今回成功を収めることが出来たのはお力を貸してくださった京都薬科大学の乾学長をはじめ、先生方、教務課、またボランティアスタッフのみなさんのおかげだと思っています。将来必ず何らかの形でかかわることになる医療系学生の方々が学生の中から交流できるという1番の目標を達成することが出来て大変嬉しく思いました。しかし、このままで満足せず大学の代表として参加している医療チーム学生フォーラムとしてより内容に富んだイベントを開催し、自分を含め、もっと多くの学生の将来を考えるきっかけ作りの手伝いをしたいと考えております。



スタッフ 3年次生 入江 裕子

以前から、他学部との交流ができるプロジェクトに興味を持っていましたが、機会がなく今回、初めて参加しました。ロールプレイングやディスカッション等を通して感じたのは、各学部での知識の違いでした。同じ科目の授業を受けていても、アプローチが異なることが多く、この相違こそがチーム医療に重要なのだと感じました。お互いに理解、尊重しつつも自身の知識を元に、芯を貫くことも必要ではないのかなと、私は考えました。私は、このプロジェクトに友人の誘いで参加しました。興味があっても、なかなか一歩を踏み出せない人もいると

思います。私も以前はそうでした。でも、そういう人にこそ参加してほしいと思います。新たな発見があるだけでなく、普段何気なく学んでいることに対する姿勢にも変化があるかもしれません!!

スタッフ 2年次生 木村 葵

私は、友人に今回のプロジェクトに誘われ、「暇だし、他にやることないし、べつにいいよ」程度の気持ちでスタッフをしていたように思います。そうは言っても、やはり、スタッフを任されることで得るものは多くありましたし、企画を成功させたことで自信もつきました。「同じような企画があればまた参加したい」と、多くの方に言っていただけたことは本当に嬉しく思います。今後もこのプロジェクトを継続させていくと共に、他大学での似たような催しにも参加していきたいと思っています。

4年次生 大杉 将司

プレゼン担当として参加させていただき、自らの学部について改めて向き合うことが出来ました。また、このようなフォーラムに参加することで自分の期待していた以上の経験を得ることが出来たと思います。とても価値のある有意義な時間でした。

スタッフ 4年次生 宮本 恵輔

とにかく楽しかった。自分でイベントに関われたとかもともとこういったイベントに興味があったというのもあるけど、何より会場に来てくれはった人、スタッフ全員が楽しんでいたのも、自分も一緒に楽しまれました。この企画が次に繋がるよう、また参加したいと思う企画が次もあればええなと思います。

スタッフ 3年次生 荒木 悠

今回学生フォーラムに参加させていただいて、将来一緒に働くことになる医療関係者の方々の事を生で知れる良い機会でした。将来の医療現場に対する意識の高い学生同士話をする事で、ただ薬学分野の勉強を黙々としていた頃より世界が広がることでよりモチベーションが上がったかと思います。このような機会を一回だけで終わらず次に次にとこの企画をつなぎ、より多くの未来の医療関係者同士の意識共有を大きくしていきたいです。

スタッフ 2年次生 友金 眞光

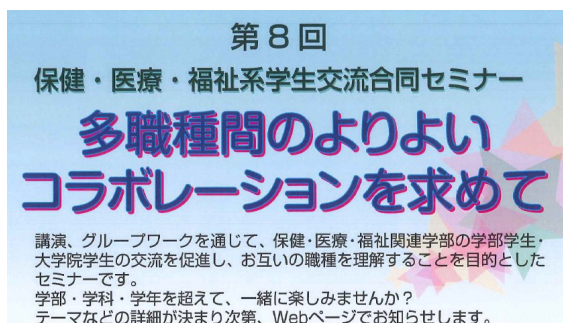
モチベーションの高い方々が集まってとても刺激を受けたプロジェクトで楽しかったです。

保健・医療・福祉系学生交流合同セミナーに参加して

教務課

夏季休暇を利用して、8月8日に開催された保健・医療・福祉系学生交流合同セミナーへ参加し、他職種について他大学・他学部の学生と一緒に考え・意見交換をしながら研鑽を積まれました。

参加者の感想を紹介いたします。



2年次生 木村 葵

今回のセミナーには、慶応義塾大学と首都大学東京の学生を中心に34名が参加し、これまで関わる機会の少なかった作業療学科や理学療学科、臨床検査学科の学生と交流を持つことが出来ました。セミナーの主な内容は、「保健・医療・福祉系多職種間のより良いコラボレーションを図るため、大学の新しいカリキュラムを作る」という目的の一連のワークショップでした。医療系学生が卒業までに学

ばなければいけないこととして、どのグループも「患者・他職種者とのコミュニケーション能力」を重要視していたことが印象的でした。他職種への理解を深め、臨床現場でのより良い連携を実現するためにも、今回、他の医療系学部の学生と交流出来たことは大変意義のあることだったと思います。

3年次生 辻合 美智子

私は、第8回保健・医療・福祉系学生交流合同セミナーに参加させていただきました。今回のテーマは医療系多職種間のより良いコラボレーションを求めてというものでした。普段交流できない医療系の学部生と、お互いの職種について理解しチーム医療の一員となるために今私達が学ぶべきこと身につけておくべきことについて、それから多職種間連携教育カリキュラムについて考えるといったディスカッションをしました。今回、作業療法士や臨床検査技師などの保健・福祉系を含めたチーム医療について初めて話し合い、私にとってとても新鮮で新たな気付きがありました。医療はたくさんの職種が関わって成り立っているということを改めて知り、医療をより良いものとするためには、より多職種間について理解しコミュニケーションを大切にし連携の強化が必要なのではないかと考える機会となりました。



グループディスカッションの様子



グループ発表の様子

日本薬学会第3回全国学生ワークショップに参加して

6年次生 南谷 怜亜

8月10日～11日、日本薬学会薬学教育委員会主催の第3回全国学生ワークショップが東京のクロス・ウェーブ府中にて開催されました。このワークショップは6年制一期生が6年次を迎えた2年前から毎年開催されており、6年制薬学教育に対するフィードバックを目的としています。今年は全国の薬学部6年次生70名と、1期生、2期生の先輩方18名が集まり、6年制薬学教育課程の成果と課題について議論しました。6年次生は大きく3つのチームに分かれ、さらにその中で7～8人ずつの小グループに分かれてSGDを行い、発表し合いました。セッションは、第1部「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」、第2部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」、第3部「薬剤師として社会、医療に貢献するために：必要な能力／私たちが取り組んで行くこと」というテーマで、6年間を振り返り、私達が身に付けてきたこと、目指す薬剤師像、今後具体的にどういうことに取り組んでいくか、といったことについて討議しました。その中で特に印象深かったのは、単にジェネラリスト・スペシャリストな薬剤師を目指すのではなく、視野が広く責任感と主導力を持ったプロフェッショナルな薬剤師を目指そう、という結論でした。また、ネットワーク医療と人権〈MERS〉の花井十伍さんや、ファルメディコ株式会社代表取締役社長の狭間研至先生による講演も行われました。（内容の詳細については後日、日本薬学会のホームページに報告書が掲載される予定ですので、是非ご覧ください）

私がこのワークショップに参加して感じたことは、まず全国の他大学の学生の熱意と発言力です。私は普段どちらかというと人の話を聞く方なのですが、SGDではみんなの活発な発言に刺激を受け、もっとみんなと討論したい!という気持ちになりました。また、討論することで新しい何かを見つけることができると感じました。ある大学では看護師や臨床検

査技師などを目指す学生たちとSGDによる症例検討をしていたり、下級生の留年生や再試験受験者に対して5・6年次生が個別指導を行う取り組みがされているという話を聞き、特に前者に関しては私も経験してみたいと感じました。今回のワークショップを通して学んだことは、私たちは社会のニーズをもっと理解する必要があること、病院・薬局・企業・大学・行政などが互いに連携することでより医療の質を底上げできる可能性があることです。また花井さんや狭間先生の講演からは、薬剤師は医薬品という不完全な商品を患者さんの命をかけて育てているという大きな責任を担っていることや、服薬後の患者さんの状態について薬学的視点から未来を予測し「謎解き」する力が求められていることを学びました。私たちは卒業後様々な分野で活躍していきますが、各分野において薬剤師としての責任を果たしながら、さらに分野を超えた横のつながりを大切にして社会に貢献していきたいと強く感じた2日間でした。

最後に、今回このような貴重な機会を与えて下さった関係の皆様に、厚く御礼申し上げます。



SGDを行ったグループの仲間

2年目を迎えた「京都学」講義

基礎科学系 一般教育分野 教授 鈴木 栄樹

昨年度入学の1年次生より順次適用されはじめている新カリキュラムの「人と文化」のなかに、私が担当する1年次生の後期科目として新たに「京都学」なるものを置いた。旧カリキュラムでは「地域社会の歴史と文化」という名で置かれていた科目の新装開講とも言える。

「京都学」とは、いささか時流に乗った感がないでもない。すでに京都のいくつかの大学においても開講されており、また現在、北区にある京都府立総合資料館と京都府立大学図書館とを一体化して建て直しの工事が来年の竣工を目ざして進められており、この新たな施設には「国際京都学センター」なるものが併設されるとのことである。

また、最近では、現在は京都市に含まれてはいるが独自の歴史を有する伏見については「伏見学」、また宇治市の「宇治学」、お隣の滋賀県では「近江学」など、さまざまな地域学が誕生してもいる。

このように「京都学」という講義はことさらに新しいものではない。しかし、多かれ少なかれ、「京都」という地に惹かれて本学を志望した学生も少なくないことを考えると、「京都」という2文字を掲げた講義を開くことにはそれなりに大きな意味もあると考えている。せっかく「京都」薬科大学に來たのだから、京都の様々な魅力ある面を紹介したい。そんな思いもある。

私は、ここ20年ほど、幕末から明治・大正にかけての京都の歴史を自らの研究対象の1つとしてきた。だから、古代の平安京の時代から連綿と続く「千年の古都」京都の歴史を私一人でカバーできる能力は到底ないことを自覚している。そこで何人かの学外講師をお招きして、私の講義だけでは到らぬところをカバーしていただくことにしている。これは、他の「人と文化」の講義にはない「京都学」講義の特徴である。また、これら学外講師の講義は、受講生以外の学生、さらには職員など本学関係者にも開放している（教室については、通常の私の講義の際の教室とは別室で事前に掲示）。昨年度は次の3名の方々をお招きした。日頃、なかなか拝聴する機会のない講師陣ではないかと密かに自負している。

10月30日

中村 利則 氏

京都造形芸術大学教授
「茶の湯と茶室の文化」

11月13日

杉本 節子 氏

（料理研究家・公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会
事務局長）
「町家の生活と食文化」

11月20日

宇佐美 直治 氏

株式会社宇佐美修徳堂代表取締役
「文化財の宝庫としての京都
—文化財修復技術と素材について—」

また、今年は、次の4名の方々の講義を予定している。

11月5日

John Breen 氏

国際日本文化研究センター教授
「三大祭り近代京都の形成」

11月19日

宇佐美 直治 氏

(前年度と同様)

12月3日

冷泉 貴実子 氏

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事、
25代当主・理事長為人氏夫人
「和歌における四季の美」

12月17日

山田 由希代 氏

京都府立堂本印象美術館 主任学芸員
「京都画壇の近代化」

「京都学」の講義では、前の「地域社会の歴史と文化」の時からフィールド課題、「山科散策」を課している。「おこしやす“やましな”協議会」のサイトに「Let's walk やましな」というページ(<http://www.okoshiyasu-yamashina.org/walk.htm>)がある。ここには、山科地域の8つの散策コースが紹介され、散策マップのPDF版がダウンロードできるようになっている。散策コースには、「おだやかな時間の流れを感じる・山科疏水みち」、あるいは「旧東海道へタイムトラベル」などといった名がつけられている。これらの8コースから1つを選んで散策した感想などをメールで写真付きレポートとして提出させる、という課題である。

この課題を与え始めてみて思ったのは、予想以上にいいレポートが多いということである。課題なので仕方なく散策に行ったが、行って良かったと思ってもらえているようである。

私たちは、それぞれの地域の歴史と文化のなかに生まれ育ち、そして今という時代に共に生きている。京都という、かつて日本の政治・経済・文化の中心地であった都市の歴史を知ることにより、自分

たちが生まれ育った地域を知る手だてにもなり、また 作りあげていくなかで「京都学」の講義がなんらかの
他の人々を理解するうえでも大切である。将来、社会 糧になれば、私にとっては望外の喜びと言える。
に出てさまざまな世代の人たちと有意義なつながりを

Library News

図 書 館

メディカルオンライン トライアル実施中！

9月17日よりメディカルオンラインのトライアルを実施しています。

「リモートアクセス」を利用すれば、学内からだけでなく、実習中でもご自宅のパソコンやスマートフォンからご利用いただけます。この機会にぜひご活用ください。

メディカルオンラインとは

医学文献の検索全文閲覧をはじめ医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供する、医学・医療の総合サイトです。

日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、看護学、医療技術、栄養学、衛生・保健などのあらゆる医学関連分野の「医学文献」から検索し、必要な文献は全文閲覧・ダウンロードが可能です。

トライアル期間

2013年9月17日（火） ～ 2013年11月16日（土）

トライアルサイトURL

<http://www.medicalonline.jp>

（図書館ホームページ「お知らせ」からもアクセスできます）

注意事項

- ・特定の雑誌を大量にダウンロード（手動・自動）することは固く禁止されております。
※大量のダウンロードやプリントアウトなどの不適正な利用があった場合、出版社側から利用停止措置がとられます。この利用停止の適用範囲は全学にわたることがありますから、ひとりのちょっとした不注意や自分本位の行為が、京都薬科大学のすべての構成員に迷惑を及ぼすことになります。お気をつけください。
- ・正式契約を前提としたものではありません。トライアル期間終了後は利用できなくなりますので、あらかじめご了承ください。
- ・FAXサービスは対象外です。

開 館 日 程

2013年 10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2013年 11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2013年 12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

休館 9:00-20:00 9:00-17:00 10:00-17:00 休館=館内整備

受賞

日本ビタミン学会 第65回大会において 学生優秀発表賞受賞

2013年5月17日・18日に一橋大学にて開催された「日本ビタミン学会 第65回大会」において、薬品物理化学分野の6年次生 岡村有里子さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：6年次生 岡村 有里子

演題：トコフェロールコハク酸によるAngiopoietin-2抑制を介した血管の構造安定化作用

演者：岡村 有里子、濱 進、土谷 博之、
福澤 健治、小暮 健太郎

日本膜学会第35年会において 学生賞受賞

2013年5月20日(月)・21日(火)に早稲田大学にて開催された「日本膜学会第35年会」において、薬品物理化学分野の博士後期課程3年次生 扇田隆司さんが学生賞を受賞しました。

受賞者：博士後期課程3年次生 扇田 隆司

演題：細菌べん毛との類似性に基づくⅢ型分泌装置の機能メカニズムの解析

演者：扇田 隆司、林 直樹、濱 進、土谷 博之、
後藤 直正、小暮 健太郎



日本薬剤学会第28年会において 大学院生スカラシップおよび最優秀発表者賞受賞

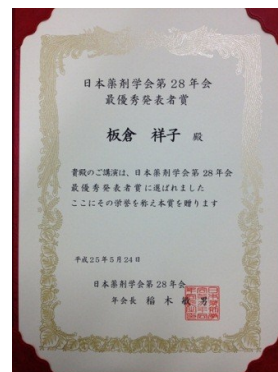
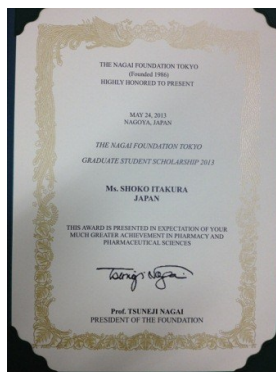
2013年5月23日～25日に開催された「日本薬剤学会第28年会」において、薬品物理化学分野の博士後期課程2年次生 板倉祥子さんが大学院生スカラシップおよび最優秀発表者賞を受賞しました。

[大学院生スカラシップおよび最優秀発表者賞]

受賞者：博士後期課程2年次生 板倉 祥子

演題：細胞内プロテアーゼ切断ペプチドを利用した新規薬物放出キャリアーの開発

演者：板倉 祥子、濱 進、大石 利一、扇田 隆司、
小暮 健太郎



日本薬剤学会第28年会において 永井財団七つ星薬師賞受賞

2013年5月23日(木)～25日(土)に開催された「日本薬剤学会第28年会」において、薬品物理化学分野の6年次生 中山佳代子さんが永井財団七つ星薬師賞を受賞しました。

受賞者：6年次生 中山佳代子

演題：腫瘍の微弱低pHに応答して細胞内取り込みが促進されるSAPSペプチド修飾ナノ粒子の機能性評価

演者：中山 佳代子、濱 進、板倉 祥子、
中井 麻友美、森本 智士、大石 利一、
土谷 博之、小暮 健太郎



The 5th Asian Arden Conference 2013 Best Poster Award受賞

2013年8月5日～6日に愛知学院大学にて開催された「The 5th Asian Arden Conference 2013」において、薬品物理化学分野の博士後期課程2年次生の板倉祥子さんがThe 5th Asian Arden Conference 2013 Best Poster Awardを受賞しました。

受賞者：博士後期課程2年次生 板倉 祥子

演題: Mechanism analysis of efficient
cytoplasmic delivery of macromolecules by
novel tumoral pH sensitive liposomes

演者: Shoko Itakura, Susumu Hama, Mayumi Nakai,
Kayoko Nakayama, Satoshi Morimoto,
Kentaro Kogure

掲 載

花粉症（アレルギー性結膜炎）の 新規創薬ターゲットの発見

薬理学分野の奈邊健准教授は、大阪医科大学薬理学教室の高井真司准教授および小野薬品工業株式会社との共同研究により、タンパク分解酵素の一種であるキマーゼが花粉症（アレルギー性結膜炎）の発症に関わることを明らかにし、その研究成果が2013年6月5日の毎日新聞、産経新聞および日本経済新聞などで紹介されました。

これまでに（1）キマーゼはヒスタミンと同様に肥満細胞（アレルギー反応の引き金となる細胞）に含有されること、（2）アレルギー性結膜炎患者の重症度と結膜のキマーゼ活性は相関すること、が分かっていましたが、眼の痒みや結膜の充血・浮腫の症状の発症に実際に関与するか否かは明らかではありませんでした。

今回、新規のキマーゼ阻害薬を用い、花粉によってモルモットに誘発したアレルギー性結膜炎モデルにおいて、眼の痒みおよび結膜の充血・浮腫の発症にキマーゼが関与することを明らかにし、また、キマーゼは肥満細胞からのヒスタミン遊離を一部介して症状を誘発することを示しました。

花粉症の眼の痒みや充血・浮腫に有効でかつ副作用の少ない薬物は抗ヒスタミン薬のみであり、今後、キマーゼ阻害薬は新たな作用機序を有する治療薬になる可能性が示されました。

本研究は6年制の1期生の学部生とともに行われた研究であり、今後も学部生が研究活動に大きく貢献することが期待されます。

花粉症 かゆみの原因また一つ

京都薬科大の奈邊健准教授（薬理学）の研究グループは4日、スギ花粉症による目のかゆみの原因物質として、たんぱく分解酵素「キマーゼ」が関係していることを動物実験で確認したと発表した。有機化合物のヒスタミン以外の新たな原因物質の特定で、新薬の開発につながる可能性がある。眼科の専門誌「エクスペリメンタル・アイ・リサーチ」（電子版）に論文が掲載された。

目のかゆみや充血（アレルギー性結膜炎）は、体内に侵入した花粉が結膜の特定の細胞とくっつき、ヒスタミンが放出されることで起きる。患者の涙にヒスタミンのほかキマーゼが多く含まれることは知られていたが、症状に関与するかは分かっていなかった。

グループは、スギ花粉症にシモルモットに、キマーゼの働きを抑制する試薬を投与したところ、症状が改善することを発見。キマーゼを健康なモルモットに点眼すると、充血することを確認した。奈邊教授は「キマーゼによって発症するメカニズムは不明だが、ハウスダストなど他のアレルゲンによる結膜炎にも関係しているか研究を続けたい」と話している。

【五十嵐和太】

酵素「キマーゼ」特定

京都薬科大グループ

薬物動態学分野の研究が Biol. Pharm. Bull. 誌の表紙を飾る

医療薬科学系薬物動態学分野の大学院博士後期課程3年次生の河津真治さんの研究がBiol. Pharm. Bull. 誌（2013年6月号）の表紙絵に選ばれました。

本研究は、5-フルオロウラシル治療下での血漿中ジヒドロウラシル/ウラシル濃度比と抗腫瘍効果との関係性について検討したところ、個別化医療につながるバイオマーカーとしての有用性を認め、発表したものです。表紙絵は、メチレンブルーにて染色後、光学顕微鏡を用いて撮影したもので、1,2-ジメチルヒドラジン誘発大腸癌モデルラットにおける大腸異常腺窩（左、矢印）と大腸腫瘍（右）を示しています。

Kobuchi et al. Pre-therapeutic assessment of plasma dihydrouracil/uracil ratio for predicting the pharmacokinetic parameters of 5-fluorouracil and tumor growth in a rat model of colorectal cancer. Biol. Pharm. Bull. 36(6), 907-916 (2013).

さらに、本研究から得た結果に基づいて、5-フルオロウラシルのPK-PDモデル解析に関する研究成果をJ. Pharm. Sci. 誌にて報告したところ、編集委員が選んだ最も興味深い論文とされる、Editors' Pick from the recent April - June 2013 issuesとしても選ばれました。

Kobuchi et al. Pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling of 5-fluorouracil by using a biomarker to predict tumor growth in a rat model of colorectal cancer. J. Pharm. Sci., 102(6), 2056-2067 (2013).



2013年6月5日 毎日新聞（朝刊）

「身近な夏の不思議体験2013 イン 山科」開催

山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会と本学が主催する理科教室「身近な夏の不思議体験 2013 イン 山科」が9月1日、京都薬科大学にて開催された。本イベントは一昨年に引き続き3回目の開催であり、山科地区の小学生（3～6年生）を対象に理科に対する興味を持つきっかけになればと本学学生実習支援センターが中心となって行われた。当日は約230名の応募の中から抽選で選ばれた128名の小学生が参加し、午前の部（64人）と午後の部（64人）に分かれて実験を行った。実験では、参加した小学生全員に白衣と保護メガネを配布し研究者としての雰囲気味わってもらおうと共に安全に対する理解を深めながら以下の二つの実験を行った。

タマネギから遺伝子を取り出す実験では、身近にある道具を使って遺伝子を抽出した水溶液をエタノールに加え、遺伝子が沈殿する様子を観察した。参加した小学生の中には、家にある物で生命科学の実験が手軽にできることに興味を持ち、他の野菜や植物で実験しても上手く遺伝子を取り出せるのかといった質問をしてくる生徒も見られ、科学に対する関心の高さを窺う事が出来た。次に化合物の濃度の違いによって匂いが変化する鼻の不思議を体験する実験を行った。この実験では、高濃度では比較的不快な匂いがする物質でも、濃度が薄くなれば香ばしい良い香りに変化する現象を体験してもらった。参加した生徒によって、「臭ーい」、「わー、匂いが変わった」、「全く変わらなーい」等個人差があり、あらためて鼻の不思議を認識することが出来た。更に、本実験では三種類の精油を自由に配合することで好みの香りのするオリジナル消臭スプレーを作成してもらい、お土産として持ち帰ってもらった。



一昨年に引き続き3回目の開催とはいえ、普段小学生相手の指導を行っていないため不安の中スタートした理科教室であったが、生徒と教員の垣根を越えたりリラックスした雰囲気の中で自然の不思議を体験することが出来た。今回の理科教室を通じて、自然の不思議が身の回りに数多く存在し、これらの不思議を

解明していく理科の面白さに少しでも気付いてもらえれば、本学教員として幸いである。最後に、本会の開催にあたり多大なご支援を頂きました山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業に深謝致します。

学生実習支援センター 助教 小関 稔

お知らせ

第19回京都薬科大学公開講座 開催

2013年11月9日（土）に公開講座を開催いたします。今回の講演テーマは「ひんけつ」と題して、本学病態生理学分野の芦原英司教授が講演いたします。また、例年どおり健康チェックなども企画しておりますので、どうぞお越し下さい。

2013年度 学位記授与式（前期）及び
2013年度 大学院博士・博士後期課程
秋季入学式

9月30日（月）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2013年度 学位記授与式（前期）が執り行なわれ、乾学長から、課程博士1名、論文博士2名に学位記（博士（薬学））が授与されました。

また、学位記授与式に先立ち、本年度後期より薬学専攻博士課程及び薬科学専攻博士後期課程の学生を迎えることとなり、同日3時より秋季入学式を執り行いました。

人 事

採 用

事務局会計課長
事務局進路支援課

佐々江敏幸
主幹 岩澤 伸裕
(以上 2013. 7. 1付)

配置換

事務局長付

主幹 安本 義仁
(2013. 7. 1付)

出向期間満了

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

助手 松尾 道代
(2013. 6. 30付)

退職

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

助手 松尾 道代
(2013. 7. 31付)

京 薬 会 だ よ り

＜平成25年度京薬会支部総会の開催状況＞

和歌山支部(7/7)、北海道支部(7/28)、高知支部(8/24)、大阪支部(9/22)、静岡支部(9/29)がすでに開催され、今後は三重(10/6)、鳥取(10/6)、岐阜(10/13)、九州合同(福岡10/26)、富山(10/27)、京都(11/4)、宮崎(11/9)、岡山(11/17)、東京(11/24)、愛知(12/8)の各支部総会開催が予定されています。本学より会長をはじめ、来賓の先生方にもご参加いただき各地で大学と地域の交流を深めております。

＜京薬祭とホームカミングデー＞

今年度の京薬祭は11月2日～4日に開催されますが、この期間中の11月4日(月・振替休日)に、今年で第四回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年は約100名のご参加をいただきました。

本年は乾学長による大学の近況に関する紹介に加え、日本薬剤師会会長児玉孝先生(本学昭和45年卒)に「薬剤師の現状と将来」と題してご講演をいただきます。ぜひお誘いあわせの上、大学へ里帰りいただき新校舎を散策し、懐かしい先生や同窓生とご歓談ください。

また、当日は京薬祭最終日ですので、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加を期待しております。

詳しくは京薬会誌8月号、京薬会ホームページをご覧ください。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2013年6月～2013年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等(卒業年次順)＞

松本 修(昭25)	宮崎 裕臣(昭37)	上達 令子(昭57)	京薬会
河野 トヨ(昭31)	佐野 敬子(昭57)	串田 ゆか(昭63)	

＜法人役員・評議員・職員(五十音順)＞

大原 松雄(監 事)	佐原 和美(係 長)	富永 重夫(課 長)
後藤 直正(副学長)	高野 江里(課 長)	

(2013年8月31日現在)